

eMAFF地図の取組及び令和5年度紐付実施事業について

令和5年5月10日
農林水産省大臣官房デジタル戦略グループ

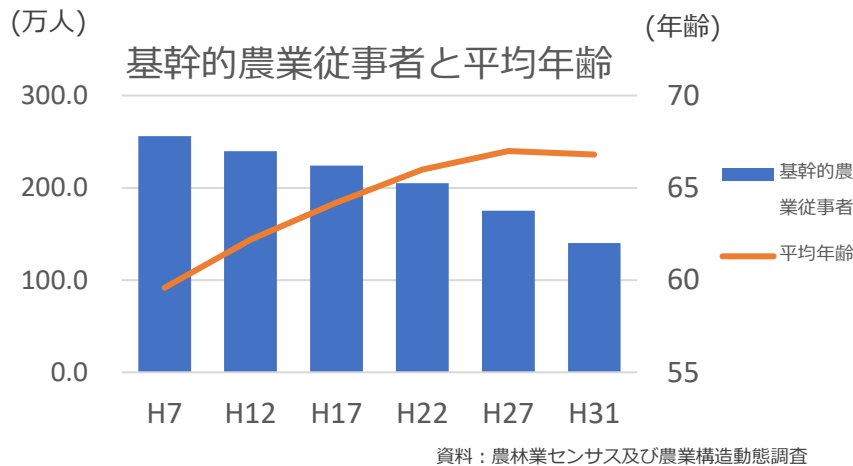
1. eMAFF地図の取り組みについて
2. 令和4年度の紐付の実績
3. 令和5年度の紐付の進め方

1. eMAFF地図の取り組みについて
2. 令和4年度の紐付の実績
3. 令和5年度の紐付の進め方

背景と目的

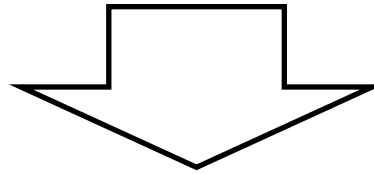
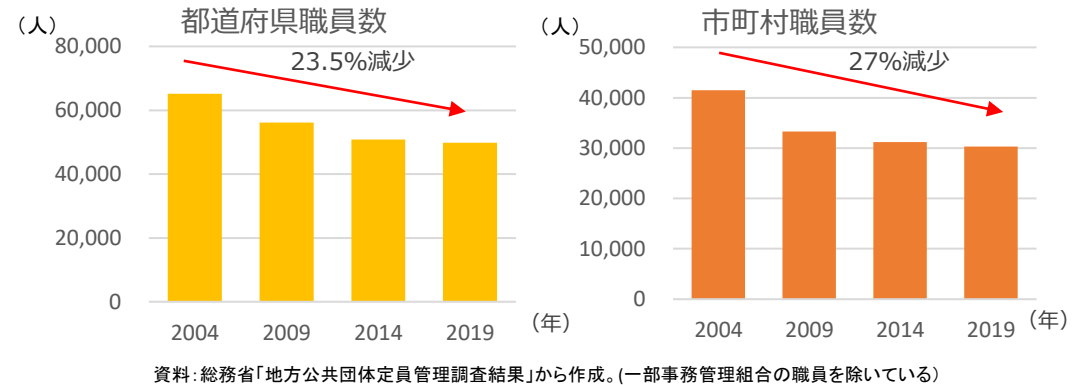
○ 農業現場では、

- ・ 農業従事者の高齢化や労働力不足（経験と勘だけの農業では先々不安）
- ・ 地方自治体の農政担当職員の減少（補助金等の手続に追われ本来業務ができない）



地方自治体職員数（農林水産分野）の推移

下記グラフと同じ期間で全職員の推移を比較すると11%減少

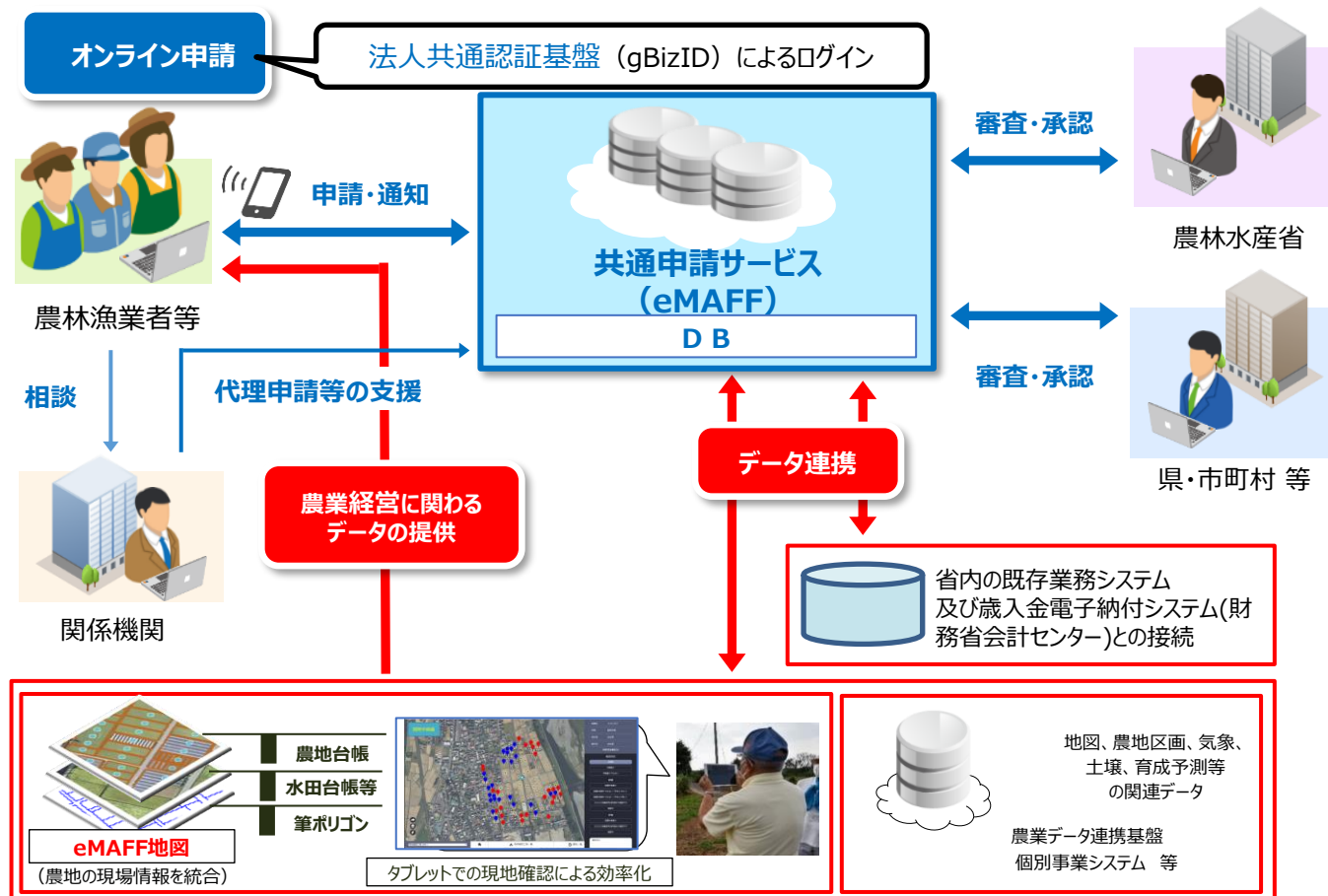


○ 農林水産省所管の行政手続の抜本見直し・オンライン化などDXの取組を進める。

- ・ 農林漁業者は、自らの経営に集中（デジタル技術・データを活用して付加価値を高める経営）
- ・ 地方自治体等の職員は、農政推進・担い手農業者の経営のサポートに注力
- ・ 農林水産省は、データに基づく効果的な政策を企画し実行

農林水産省共通申請サービス（eMAFF）の概要

- 「情報通信技術を活用した行政の推進等に関する法律」の趣旨を踏まえ、**農林水産省所管の法令に基づく手続きや補助金・交付金の手続き(地方自治体の事務も含む)をオンライン化**。
- 国に対する手続きだけでなく、**地方公共団体で完結する手続きも含めた共同基盤**として開発。LGWANにも対応。
- SaaSを採用することで、申請者等に**統一感のあるUI/UXを提供**。申請・審査の画面は、農林水産省の職員自らが作成。その際、**各手続きの申請・審査の流れ、申請項目や添付書類などの業務見直し（BPR）**を実施。
- 端末操作に不慣れな高齢農業者等に配慮し、関係機関による**代理申請の機能**も装備。
- **令和4年度中に、農地法関連の手続きを含む、約3,300の手続きのオンライン実装を完了**。引き続き、新たな制度のオンライン実装、利便性向上のためのUI/UXの抜本的改善に取り組む。



申請者が自身のスマホ、PC等からオンライン申請できる**ワンストップ**はもちろん、ひとつのID/PWで、様々なサービスにログインできる、**シングルサインオン(SSO)**を実現。

申請から審査、承認、通知まで全てオンラインでできる**デジタルファースト**、紙から電子に変わること、一度提出した情報を活用して申請できる、**ワンスオンリー**を実現。

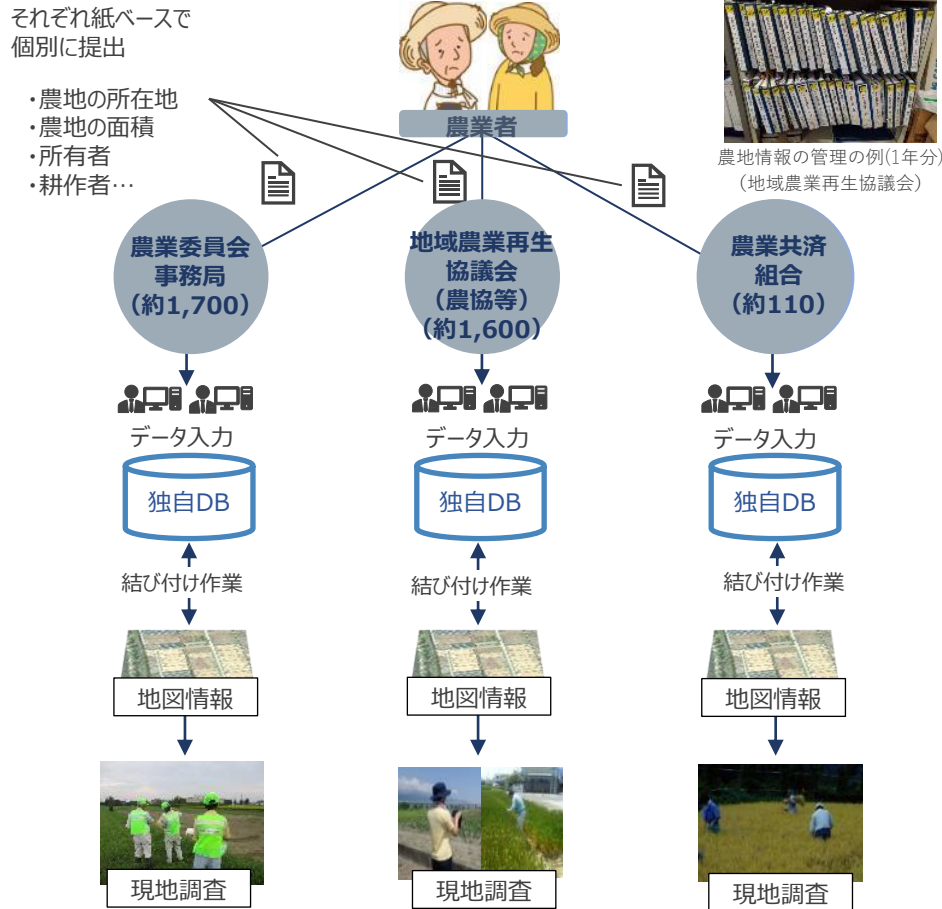
様々なデータを集約し、連携させることにより、**精度の高い分析に基づく政策評価や政策立案**が可能に。

制度担当者が自ら申請画面を構築することで、**開発の手間とコストを削減**。BPRの**契機**にもなる。

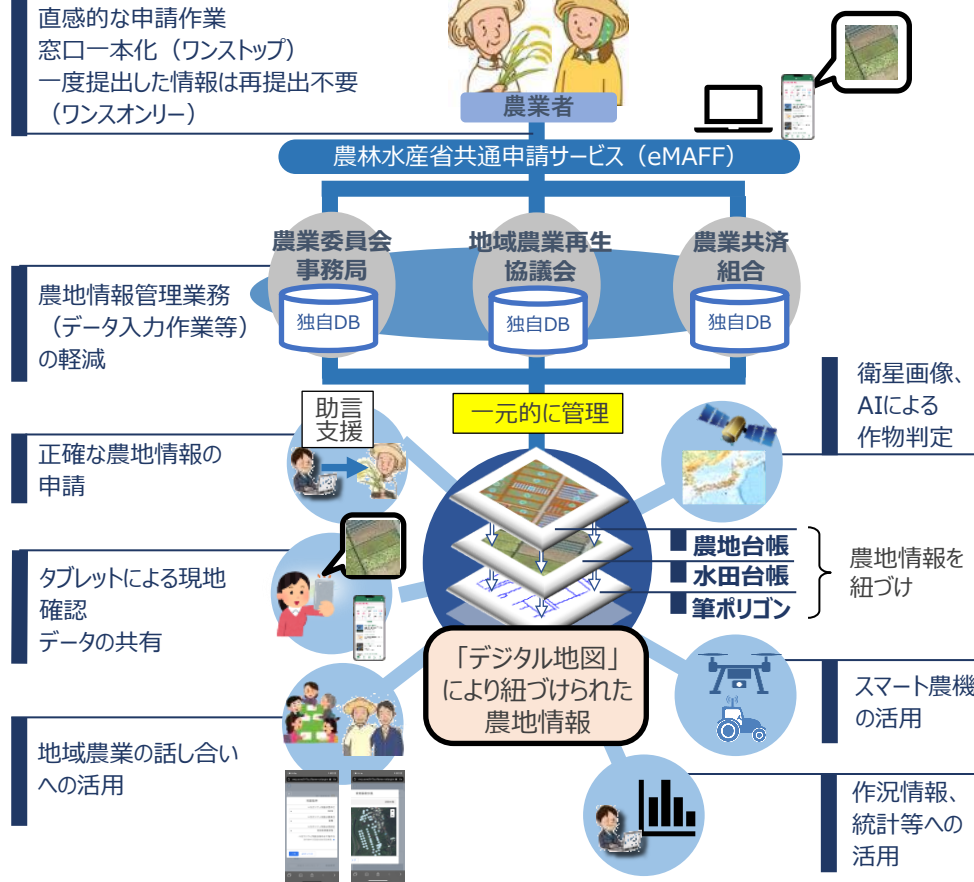
農林水産省地理情報共通管理システム（eMAFF地図）構築の背景

- 農業にとって農地は必須の生産要素であり、農地データは農業経営や農政の基盤。しかし、現状は、**農業者は、申請時に同様の内容の農地情報を各機関にそれぞれ提出**しなければならず、**バラバラに管理**。
- このため、デジタル地図の活用により、**現場の農地情報を統合し、現場の農地関連業務を抜本的に効率化・省力化**するための「農林水産省地理情報共通管理システム」（eMAFF地図）の開発に着手。

農地情報の管理の現状



目指す姿



削減される業務量（試算）

- 申請書類からのデータ入力や書類保管の作業時間 → **ゼロ**
- 現地調査の紙の地図作成や帰庁後の再入力の時間 → **ゼロ**
- 現地調査時の誘導や調査結果の記入に要する時間 → **6割程度削減**

- 情報更新 **2,136時間/年**
- 書類の量 **57,300枚**
(岩手県花巻市経営所得安定対策)
- 現地調査用の紙の地図準備作業 **40時間**
(神奈川県厚木市農地利用状況調査)
- 現地調査（経営所得安定対策）
約**23,000筆**
年**2～3回**
(佐賀県白石町)

eMAFF、eMAFF地図による農地関連業務の効率化等のイメージ

農地に関する行政手続

農地法関連手続
経営所得安定対策
農業共済
中山間地域等直接支払
多面的機能支払
環境保全型農業直接支払

現場の声を聞きながら、それぞれの手続に係る書類や申請項目等の抜本見直しを進める。

農林水産省共通申請サービス (eMAFF)

※ 農林水産省が所管する行政手続を全てオンライン化

審査承認

審査組織

国

地方自治体

農業委員会

〔農業委員会
サポートシステム〕

共済組合

〔農業共済事務
処理システム〕

・
・
・
・
・
・

連携

農林水産省地理情報共通管理システム (eMAFF地図)

・ 現場の農地情報を一元的に集約し、紐付けを行う。

農地台帳

水田台帳

農業共済台帳

日本型直払台帳

筆ポリゴン

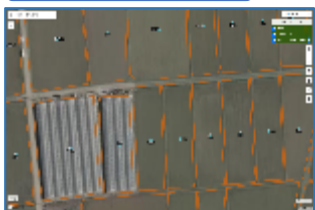
不動産登記簿情報

※ 今後は、土地改良施設（ダム、堰、用排水路）などの情報についてもeMAFF地図に組み込むことを検討。

API等による
システム
連携

eMAFF地図のアプリケーション

eMAFF農地ナビ



→インターネット上で農地の所在、利用権設定等の情報を公表し、農地の集積・集約化や就農地確保の検討に活用。

現地確認アプリ



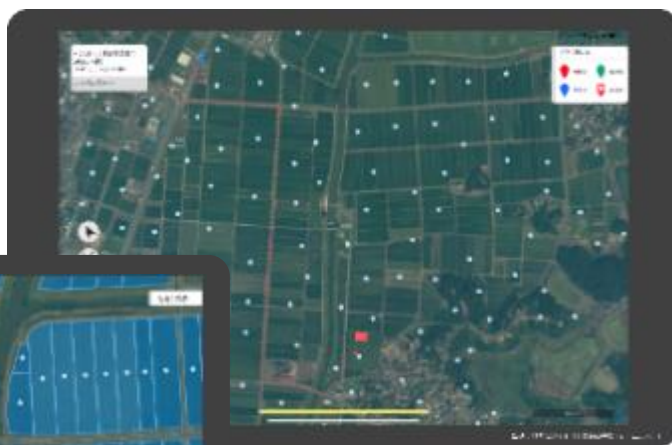
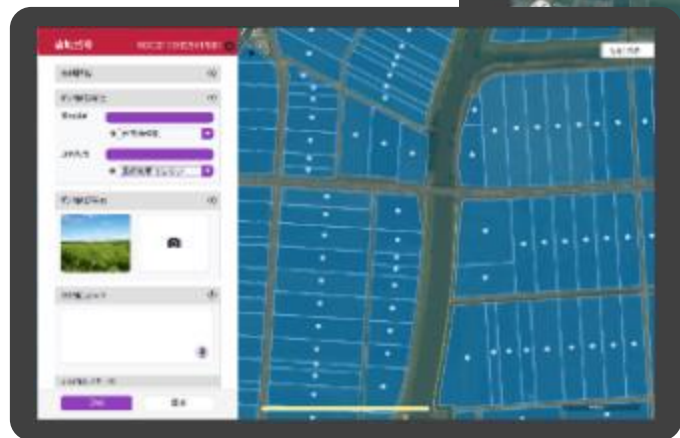
→アプリによって、現場でタブレットから農地の周辺地図や申請情報を確認し、確認結果をデータ入力できるため、現地確認の作業が効率化。

現地確認アプリの概要(1)

- 現地確認アプリ※は、各制度において実施している**現地確認業務を効率化するためのアプリ**

※ 現時点では、農業委員会及び地域農業再生協議会における現地確認機能を実装

- 本アプリにより、現地確認時に必要だった紙地図、台帳・調査野帳・デジカメの持参は不要となり、**タブレット一つで現地確認が可能**
- 携帯電波の圏外の地域でも利用可能とする**オフライン対応**
- 今後、**その他制度の現地確認業務に対応**できる機能を開発



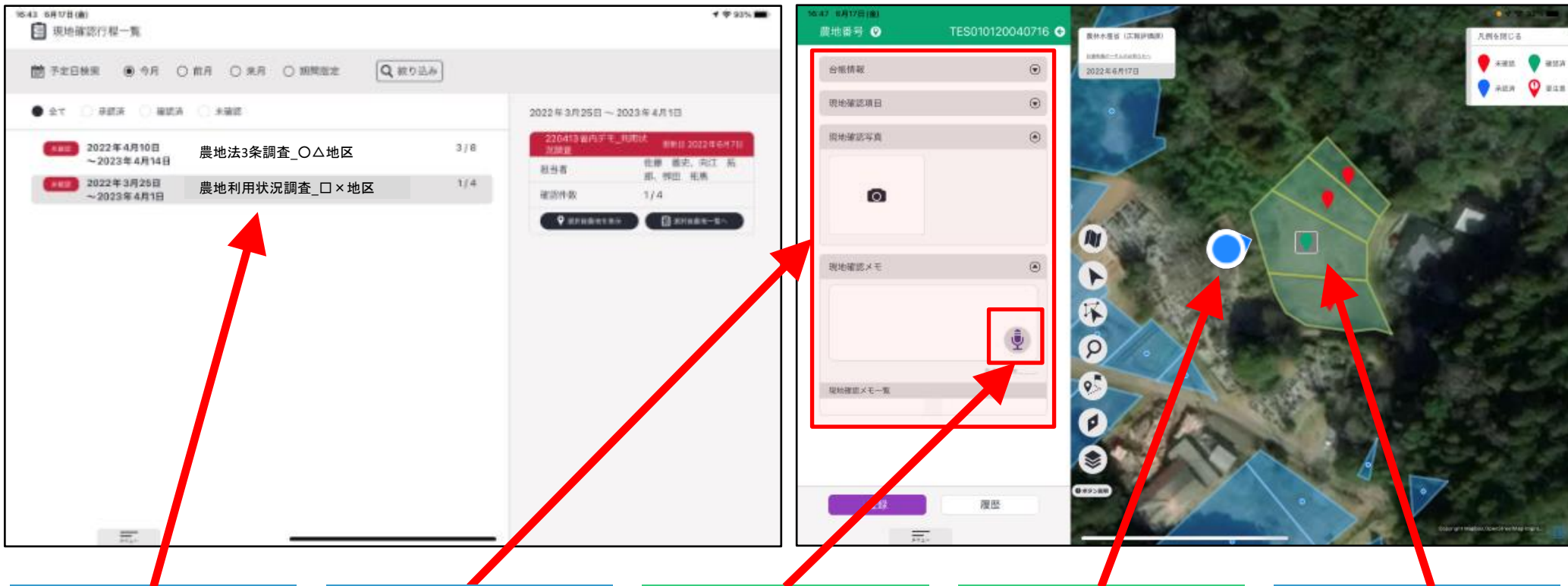
【Point】

- ・ タブレットひとつで現地確認が可能
- ・ ルート検索で迷いなく現地確認
- ・ 目の前の農地を一目で特定
- ・ 写真やメモの整理が不要

※ 現地確認アプリは、Google Playストア、AppStoreにて「eMAFF現地確認」の名称で公開中です。
(対応OS：Android10以上、iPadOS 14以上)

現地確認アプリの概要(2)

現地確認アプリの実際の操作画面の例



調査内容にそった
現地確認行程を選
択

農地毎に写真を撮
影、メモの作成、
保存が可能

メモを残す場合は、
キーボード入力以
外にタブレットの
音声入力機能も利
用可能

自身の位置や向き
を画面内で確認可
能

確認済、未確認等
の農地の確認状況
が色で判別可能

eMAFF地図 現地確認アプリ 活用事例(山梨県笛吹市)(1)

ヒアリング概要

訪問日時：2022年12月8日（木）

場所：笛吹市役所および市内農地

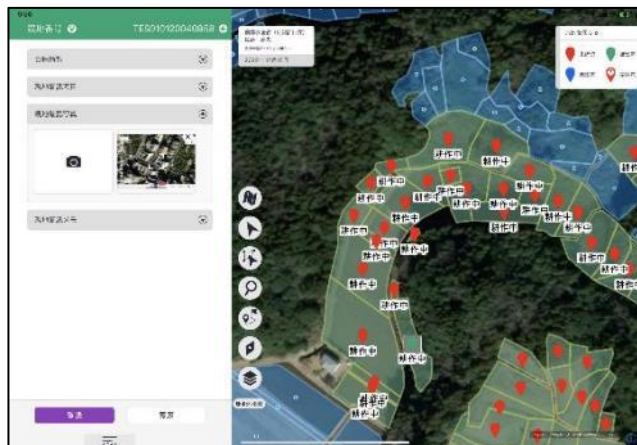
参加者：農業委員会事務局、農業委員、農林水産省デジタル戦略G、開発事業者

導入の背景

市で独自にタブレット利用した現地確認業務の導入を検討していたところ、タイミングよく農林水産省の現地確認アプリが登場したため、人員や予算を振り替えて導入。

利用状況

農業委員・推進委員38名全員が、現地確認アプリを利用。利用状況調査をアプリで実施。
android10台（機構集積支援事業でレンタル）、iPad10台（独自購入）の計20台利用。



eMAFF地図 現地確認アプリ 活用事例(山梨県笛吹市)(2)

導入のメリット

事務局側：

- ・ 地図等の準備及び農業委員会サポートシステムで結果を入力する作業が不要になった。
(専任事務員1人の年間業務の3割相当減)

推進委員側：

- ・ アプリでは地図を拡大できることから、小さい圃場などを特定しやすくなった。
- ・ 従来では大きな地図を携行する都合から、自動車での移動であったが、バイクでの調査が可能になった。
- ・ 紙地図の場合は軽トラの荷台に地図を広げて調査を実施、タブレットになったことでバイクに跨りながら肩掛けのタブレットで調査が可能になった。バイクは、狭い道にも対応できるため移動時間が大幅に短縮された。
- ・ 紙地図の調査時に比べて、2～3日の行程が半日に短縮

導入時の課題

- ・ 当初、推進委員の3名がタブレットに不慣れであるため反対、説得に時間を要した。(この3名は、研修に熱心に取り組み、結果的に他の委員より早くタブレット操作を覚えた。)

今後の課題

- ・ 人員が入替わった際の操作方法の習得。



eMAFF地図と農業委員会サポートシステム、現地確認アプリ、ワンデスクシステムの関係

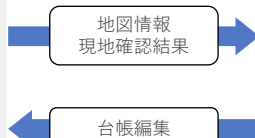
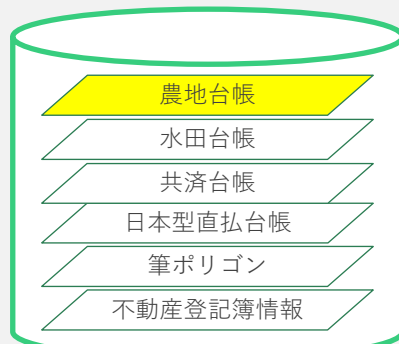
- **eMAFF地図**は、農地の地図情報等を管理し、他システムに連携する**基盤システム**
(農地情報を公開するeMAFF農地ナビ、現地確認業務を効率化する**現地確認アプリ**を運用)
- **農業委員会サポートシステム**は、農地台帳の管理や現状地図・目標地図の作成等の**農業委員会関係業務をサポートするシステム**
(地域計画の目標地図の作成に必要な**出し手・受け手の意向調査を実施するためのワンデスクシステム**を運用)
- **農地情報の紐付けが完了することにより、eMAFF地図のみならず、農業委員会サポートシステム、ワンデスクシステムにおいて最新の地図を使用可能。**

eMAFF地図

(農林水産省地理情報共通管理システム)

様々な地図情報を管理・連携する基盤システム

- ・ 地図情報の管理・連携
- ・ 農地情報紐付け関連機能
- ・ eMAFF農地ナビで情報公表
- ・ eMAFFと連携しオンライン申請・審査をサポート



地図情報

現地確認結果

現地確認アプリ

農地の現地確認業務を効率的に実施するアプリ

- ・ 市町村等職員、農業委員等が使用
- ・ 現在地把握、現場で確認結果入力可
- ・ 圏外でもオフラインで使用可能



農業委員会サポートシステム

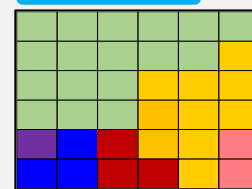
農地台帳の管理、現状地図、目標地図の作成等をサポートするシステム

現状地図

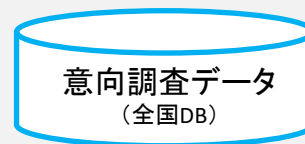


年齢や意向等別に自動で色別表示

目標地図



意向等を元に目標地図を作成



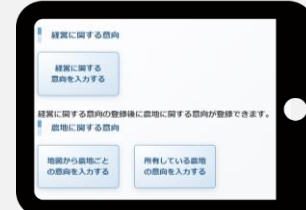
地図情報

意向確認結果

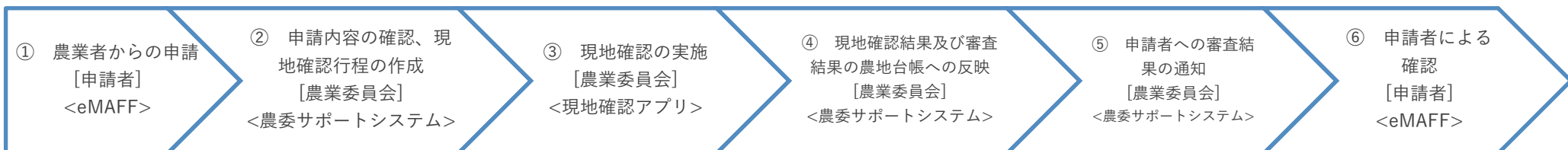
ワンデスクシステム

目標地図の作成に必要な意向調査を実施するシステム

- ・ 農地利用最適化推進委員等が使用
- ・ 調査項目を国が統一的に設定
- ・ タッチパネル形式で操作が容易



農地法3条の手続きを例としたeMAFF、eMAFF地図、農業委員会サポートシステムの関係



申請者（農業者等）

審査者（農業委員会）



1. eMAFF地図の取り組みについて
2. 令和4年度の紐付の実績
3. 令和5年度の紐付の進め方

令和4年度の紐付実施実績(全台帳)

令和4年度で機械紐づけ・手動紐づけを実施した組織数は以下のとおり。

台帳名		機械紐づけまで実施		手動紐づけまで実施	
		事業開始時の 想定組織数	最終的な実施 組織数	事業開始時の 想定組織数	最終的な実施 組織数
農地台帳		1,459	1,419	200	213
水田台帳		1,327	634※1	200	165
農業共済台帳		49	48	0	1 (岩手県)
日本型直 接支払台 帳	多面的機能	—	—	200	116
	中山間	—	—	200	102
	環境保全	—	—	200	69

※1 位置情報付与処理エラーが発生した11組織を除く

令和4年度手動紐づけの作業日数等(参考例示)

令和4年度手動紐づけ実施農業委員会における対象筆数及び修正作業日数等は以下のとおり。

※年度末の限られた期間(2週間以内)での作業依頼であり、修正の必要性の有無は農業委員会判断のため、対象筆数と修正筆数は乖離あり。

※表は、令和4年度手動紐づけ作業について、フィードバックファイル(FBファイル)を確認のうえ作業完了と作業日数を回答いただけた農業委員会より抽出。

組織	台帳レコード総数	修正対象レコード数	修正数	作業日数	作業量/日
A農業委員会	10,005	2,432	1,765	1日	1,765
B農業委員会	95,091	12,291	6,695	2日	3,348
C農業委員会	25,982	5,237	630	9日以上	70
D農業委員会	64,383	41,647	1,116	2日	558
E農業委員会	18,591	10,549	184	3日	61
F農業委員会	29,231	13,662	237	9日以上	26
G農業委員会	17,996	4,050	145	4日	36
H農業委員会	45,408	8,750	199	3日	66
I農業委員会	25,404	3,284	54	3日	18
J農業委員会	61,509	13,461	112	3日	37
K農業委員会	74,736	3,032	88	3日	29
L農業委員会	59,686	14,485	35	3日	12

紐づけ地図が活用されるシステム、アプリについて

紐づけ地図は以下のように農業委員会サポートシステム、現地確認アプリ、ワンデスクシステムで利用されるものです。特にワンデスクシステムで利用可能な地図は紐づけ地図のみであるため、紐づけ地図の整備がこれら業務実施のためにも重要になります。

令和5年度の紐づけ事業にて手動紐づけ（台帳更新等）の実施にご協力頂き、紐づけ地図の整備を推進していくようお願いいたします。

	農業委員会サポートシステム	現地確認アプリ	ワンデスクシステム
紐づけ地図（区画情報のみ） 令和4年度紐づけ実施事業にて作成	○	○※1 ※2	○
農地地図（ピン） 平成27年以降に作成・更新	○	○※1	-
農地地図（区画） 平成27年以降に作成・更新	○	○※1	-

※1：農委サポートシステムでいずれかの地図を選択

※2：令和5年7月より連携開始予定

1. eMAFF地図の取り組みについて
2. 令和4年度の紐付の実績
3. 令和5年度の紐付の進め方

令和5年度の農地情報紐付けのスケジュール

- 8月からの利用状況調査から、現地確認アプリを最新の地図で活用する場合には、6月中頃までに手動紐付けの作業をしていただく必要があります。
- 6月中頃までに作業が終わらない場合、12月までに作業を実施いただければ、年度内に最新の地図への更新作業を実施する予定です（一部分であっても対応予定）。
- 詳細については事務連絡でお伝えする予定。

